

第82回 簿記実務検定第 1 級試験問題

原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

当座預金	売掛金	製品	A組製品
作業くず	素材	所得税預り金	健康保険料預り金
売上	売上原価	賃金	従業員賞与手当
外注加工賃	保険料	修繕料	電力料
製造	A組製造	組間接費	材料消費価格差異
本社	工場		

- a. 滋賀製作所の素材に関する資料は次のとおりであった。よって、予定価格による消費高と実際価格による消費高との差額を素材勘定から材料消費価格差異勘定に振り替えた。ただし、素材の予定価格は @¥760 であり、実際消費単価の計算は総平均法によっている。

前月繰越高	1,500個	@¥710	¥1,065,000
当月仕入高	9,000"	" " 780	¥7,020,000
当月消費数量	8,500"		

- b. 本月分の賃金支払帳は次のとおりであった。よって、正味支払高を小切手を振り出して支払った。ただし、諸手当は賃金勘定に含めないで処理している。

賃金支払帳

番号	氏名	支払高			控除額			正味支払高
		基本賃金	諸手当	合計	所得税	健康保険料	合計	
		1,276,000	256,000	1,532,000	125,000	56,000	181,000	1,351,000

- c. 組別総合原価計算を採用している京都製作所は、当月分の製造経費の消費高を次のとおり計上した。なお、外注加工賃はA組製品に対するものである。

組直接費	外注加工賃	¥180,000
組間接費	修繕料	¥95,000
	電力料	¥22,000

- d. 単純総合原価計算を採用している大阪工業株式会社は、かねて、兵庫商店に製品3,000個を/個あたり ¥600 で掛け売りしていたが、本日、そのうち50個が返品されたので、売上高および売上原価を修正した。なお、この製品の払出単価は ¥420 であった。

- e. 個別原価計算を採用している奈良製作所では、製造指図書#7の製造中に作業くずが発生した。よって、これを ¥12,000 と評価し、製造指図書#7の製造原価から差し引いた。

- f. 工場会計が独立している和歌山製作所の本社は、建物の保険料 ¥360,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、このうち ¥252,000 は工場の建物に対するものである。(本社の仕訳)

2 工程別総合原価計算を採用している鳥取工業株式会社は、A製品を製造し、A製品と製造途中である第/工程の半製品を販売している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 工程別総合原価計算表を完成しなさい。
- (2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
- (3) 第/工程半製品勘定を完成しなさい。

ただし、i 第/工程の完成品原価は、すべて第/工程半製品勘定に振り替えている。

ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第/工程の完成品は第2工程の始点で投入されるものとする。

iii 加工費は第/工程・第2工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。

iv 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料

a. 生産データ

	第/工程	第2工程
月初仕掛品	400個 (加工進捗度40%)	500個 (加工進捗度50%)
当月投入	4,100個	3,500個
合 計	4,500個	4,000個
月末仕掛品	500個 (加工進捗度60%)	600個 (加工進捗度40%)
完 成 品	4,000個	3,400個

b. 月初仕掛品原価

第/工程 ￥ 408,000 (素材費 ￥256,000 加工費 ￥152,000)

第2工程 ￥1,015,000 (前工程費 ￥775,000 加工費 ￥240,000)

c. 当月製造費用

① 工程個別費・補助部門個別費および部門共通費

費 目	工程個別費・補助部門個別費			部門共通費
	第/工程	第2工程	補助部門	
素材費	￥2,714,000	—	—	—
労務費	￥2,705,000	￥2,047,000	￥236,000	￥520,000
経 費	￥ 624,000	￥ 578,000	￥187,000	￥120,000

② 部門共通費を第/工程に45%、第2工程に50%、補助部門に5%の割合で配賦する。

③ 補助部門費を次のとおり配賦する。

第/工程 ￥273,000 第2工程 ￥

d. 当月中に第/工程半製品3,500個を次工程に引き渡し、400個を外部に販売した。なお、払出単価(原価)は ￥1,590 である。

3 次の各問いに答えなさい。

- (1) 岡山製作所における次の等級別総合原価計算表の(ア)と(イ)に入る金額を求めなさい。ただし、等価係数は、各製品/個あたりの重量を基準としている。

等 級 別 総 合 原 価 計 算 表

平成〇年6月分

等級別製品	重 量	等価係数	完成品数量	積 数	等級別製造原価	製品単価
1級製品	480g	()	()個	()	()	￥(ア)
2級製品	360"	()	1,800 "	()	(イ)	" ()
3級製品	240"	2	2,400 "	()	()	" 300
				16,200	2,430,000	

(2) 次の文の のなかに、適当な金額または数量を記入しなさい。

山口工業株式会社はY製品を製造し、/個あたり ¥1,800 で販売している。短期利益計画のために、総原価を変動費と固定費に分け、直接原価計算による損益計算書を作成したところ、Y製品を2,200個販売した場合の変動費は ¥2,772,000 固定費は ¥864,000 営業利益は ¥ a であった。この損益計算書をもとに計算した損益分岐点の売上高は ¥ b であり、目標営業利益 ¥567,000 を達成するための販売数量は c 個であった。

(3) 標準原価計算を採用している島根製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

a. 完成品の標準原価 b. 材料消費数量差異 c. 賃 率 差 異

ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。

ii 解答欄の () のなかに不利差異の場合は(不利)、有利差異の場合は(有利)と記入すること。

資 料

① 標準原価カード(一部)

A製品 標準原価カード			
	標準消費数量	標準単価	金 額
直接材料費	4kg	¥ 350	¥1,400
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	3時間	¥1,200	¥3,600
製品/個あたりの標準原価			¥6,500

② 生産データ

月初仕掛品	300個	(加工進捗度40%)
当月投入	1,300個	
合 計	1,600個	
月末仕掛品	400個	(加工進捗度50%)
完 成 品	1,200個	

③ 実際直接材料費 ¥1,802,000

実際消費数量 5,300kg

実際単価 ¥340

④ 実際直接労務費 ¥4,636,000

実際直接作業時間 3,800時間

実際賃率 ¥1,220

(4) 広島製作所の下記の勘定記録と資料により、次の金額を求めなさい。ただし、会計期間は原価計算期間と一致している。なお、製造間接費配賦差異は売上原価に振り替える。

a. 製造直接費 b. 製造間接費の実際発生額 c. 売 上 原 価

製 造		製 造 間 接 費	
前期繰越	735,000	工場消耗品	175,000
材料()		賃 金()	
賃 金	2,983,000	給 料	355,000
外注加工賃()		電 力 料()	
製造間接費()		減価償却費	210,000
()		製造間接費配賦差異	4,000
		()	
			()

資 料

① 素 材	期首棚卸高	¥337,000	当期仕入高	¥2,415,000
	期末棚卸高	¥402,000		
② 賃 金	前期未払高	¥297,000	当期支払高	¥3,190,000
	当期未払高	¥364,000		
③ 外注加工賃	前期前払高	¥ 65,000	当期支払高	¥ 284,000
	当期未払高	¥ 73,000		
④ 電 力 料	当期支払高	¥162,000	当期測定高	¥ 164,000
⑤ 製 品	期首棚卸高	¥840,000	期末棚卸高	¥ 670,000

4

個別原価計算を採用している近畿製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 6月/3日と30日①の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 消費賃金勘定・第2製造部門費勘定・製造部門費配賦差異勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。
なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
- (4) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。
- (5) 月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	150個	@¥3,200	¥ 480,000
工場消耗品	200〃	〃 〃 120	¥ 24,000
仕 掛 品（製造指図書#1）			¥3,110,000（原価計算表に記入済み）
製造部門費配賦差異			¥ 7,000（借方）

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高は、作業時間/時間につき ¥1,300 の予定賃率を用いて計算し、消費賃金勘定を設けて記帳している。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額（予算額）	¥7,350,000	¥3,264,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	15,000時間	10,200時間

- v 製造間接費勘定を設けている。

取 引

6月 6日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	600個	@¥3,300	¥1,980,000
工場消耗品	900〃	〃 〃 120	¥ 108,000

13日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材500個を消費して製造を開始した。

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額	¥3,260,000
うち、控除額	所得 税 ¥258,000 健康保険料 ¥129,000

30日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は150個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。

製造指図書#1 1,100時間 製造指図書#2 1,150時間 間接作業 200時間

③ 健康保険料の事業主負担分 ¥129,000 を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を次のとおり計上した。

電 力 料	¥149,000	保 險 料	¥52,000
減価償却費	234,000		

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1 400時間	製造指図書#2 700時間
	製造指図書#2 900時間	250時間

⑥ 製造間接費を次のとおり各部門に配分した。

第1製造部門	¥486,000	第2製造部門	¥238,000
動力部門	150,000	修繕部門	64,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
動力部門費	kW数×運転時間数	60kW×900時間	50kW×420時間
修繕部門費	修繕回数	6回	2回

⑧ A製品（製造指図書#1）40個が完成した。

⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥3,234,000 を計上した。

⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第82回 簿記実務検定 1級 原価計算 [答案用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	-----

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1)

工程別総合原価計算表

平成○年6月分

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程	合 計
工程個別費 素 材 費		—	
前工程費	—	5,565,000	5,565,000
労 務 費		2,047,000	
経 費		578,000	
部門共通費配賦額	288,000		
補助部門費配賦額	273,000		
当 月 製 造 費 用			
月初仕掛品原価	408,000	1,015,000	1,423,000
計			
月末仕掛品原価		1,173,000	
工程完成品原価			
工程完成品数量	4,000個	3,400個	
工 程 単 価	¥	¥	

(2)

第2工程の月末仕掛品原価
に含まれる前工程費

¥

(3)

第 1 工 程 半 製 品

前 月 繰 越	755,000	() ()
() ()		売 上 原 価 ()
		次 月 繰 越 ()
()		()

2

得点

3

(1)

ア	¥
イ	¥

(2)

a	¥
b	¥
c	個

(3)

a	完 成 品 の 標 準 原 価 ¥
b	材 料 消 費 数 量 差 異 ¥ ()
c	賃 率 差 異 ¥ ()

(4)

a	製 造 直 接 費 ¥
b	製造間接費の実際発生額 ¥
c	売 上 原 価 ¥

3	
得点	

4

(1)

	借 方	貸 方
6月/3日		
30日①		

(2)

消 費 賃 金
第 2 製 造 部 門 費
製造部門費配賦差異
6/1 前 月 繰 越 7,000

(3) 部 門 費 振 替 表
直接配賦法 平成〇年6月分

部 門 費	配賦基準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 / 部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修 繕 回 数					
配賦額合計						
製造部門費合計						

(4) 製造指図書# / 原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
2,573,000	390,000	第1	300	490	147,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製 造 原 価	
						完成品数量	個
						製 品 単 価	¥

(5) 月末仕掛品原価 ¥

4
得点

借 方		貸 方	
a	材料消費価格差異	85,000	85,000
b	賃 金 従業員賞与手当	1,276,000 256,000	125,000 56,000 1,351,000
c	A 組 製 造 組 間 接 費	180,000 117,000	180,000 95,000 22,000
d	売 上 製 品	30,000 21,000	30,000 21,000
e	作 業 く ず	12,000	12,000
f	保 險 料 場	108,000 252,000	360,000

2

工程別総合原価計算表			
平成〇年6月分			
摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程	合 計
工程個別費 素 材 費	2,714,000	—	2,714,000
前工程費	—	5,565,000	5,565,000
労 務 費	2,705,000	2,047,000	4,752,000
経 費	624,000	578,000	1,202,000
部門共通費配賦額	288,000	320,000	608,000
補助部門費配賦額	273,000	182,000	455,000
当月製造費用	6,604,000	8,692,000	15,296,000
月初仕掛品原価	408,000	1,015,000	1,423,000
計	7,012,000	9,707,000	16,719,000
月末仕掛品原価	612,000	1,173,000	1,785,000
工程完成品原価	6,400,000	8,534,000	14,934,000
工程完成品数量	4,000個	3,400個	
工 程 単 価	¥ 1,600	¥ 2,510	

(2) 第2工程の月末仕掛品原価 951,000
に含まれる前工程費 ¥

第 1 工 程 半 製 品			
前 月 繰 越	755,000	(第 2 工 程 製 造)	(5,565,000)
(第 1 工 程 製 造)	(6,400,000)	売 上 原 価	(636,000)
		次 月 繰 越	(954,000)
	(7,155,000)		(7,155,000)

3

(1)	ア	¥	600
	イ	¥	810,000

(2)

a	¥	324,000
b	¥	2,880,000
c		2,650 個

(3)

a	完成品の標準原価	¥	7,800,000
b	材料消費数量差異	¥	35,000 (不利)
c	賃率差異	¥	76,000 (不利)

(4)

a	製造直接費	¥	5,755,000
b	製造間接費の実際発生額	¥	1,178,000
c	売上原価	¥	7,262,000

4

(1)

	借方	貸方
6月/3日	製造	1,635,000 素材
30日①	製造間接費	114,000 工場消耗品
		114,000

(2)

消費賃金	
6/30 賃金	3,234,000
6/30 諸口	3,185,000
〃 賃率差異	49,000
	3,234,000
第2製造部門費	
6/30 製造間接費	238,000
6/30 製造	304,000
〃 諸口	58,000
〃 製造部門費配賦差異	8,000
	304,000

製造部門費配賦差異

6/1 前月繰越	7,000	6/30 第2製造部門費	8,000
30 第1製造部門費	5,000	〃 次月繰越	4,000
	12,000		12,000

(3)

部門費振替表

平成〇年6月分

直接配賦法

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		938,000	486,000	238,000	150,000	64,000
動力部門費	1W数×運転回数	150,000	108,000	42,000		
修繕部門費	修繕回数	64,000	48,000	16,000		
配賦額合計		214,000	156,000	58,000		
製造部門費合計		938,000	642,000	296,000		

(4)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費		集計	
		部門時間配賦率	金額	摘要	金額
2,573,000	390,000	第1 300	490 /47,000	直接材料費	2,573,000
	1,430,000	第1 400	490	直接労務費	1,820,000
	1,820,000	第2 700	320	製造間接費	567,000
				製造原価	4,960,000
				完成品数量	40 個
				製品単価	¥ 124,000

(5)

月末仕掛品原価	¥	3,651,000
---------	---	-----------